

## 6月のコラム ～50周年記念行事によせて～

先日、顧問先様の創立50周年記念行事に出席させていただきました。元々、医療法人の職場保育所として運営されていたのを職場から地域に広げて、社会福祉法人として民間保育園を創立、現在は介護事業も展開されています。当日は、園児たちのかわいい太鼓・歌から始まり、スライドショーなど盛りだくさんだったのですが、50年を振り返ってのリレートークが心に残りました。創立時、園の建て替え、介護事業の立ち上げとその時々で関わられた方々のエピソードをお聞きして、本当に多くの方々が力を合わせてこられた結果で今があるのだと実感しました。

お話された中のお一人は、子どもの時この保育園に通っていて、この法人グループの調剤薬局で働き、今はご自身のお子さんを預けておられるとのことでした。園児であった方がお母さんになって保護者としてこの園に戻ってこられるというケースは、珍しくないそうです。地域に根差して繋がっているのですね。

製造業を営まれている企業の50周年記念に参加させていただいたこともあります。年表と共に当時の写真が展示されていたのですが、実際の創業からだとはほぼ100年。古くからのお取引先や関係者の方々のスピーチで色々な苦労話や会社の転機となった出来事もお聞きして、一つの会社が持つ歴史の重みと奇跡を感じるものでした。社員さんも全員参加されていたのですが、会社沿革として文字で「知っている」というだけの歴史だったのが、事実として身近に感じられたせいか、どの社員さんも誇らしげな表情だったのが心に残っています。

日常業務の中では、会社の歴史や背景などに意識が向くことは少ないですが、どの会社にも資金も少なく顧客もゼロという創業期があり、社会情勢の変化や景気の変動、内部のゴタゴタ等に危機を感じたこともあるはず。今存在しているということは、あらゆる苦難を乗り越え、前進を続けてきたからに他なりません。初めから今の状態があったのではないことを認識できる節目の行事は、貴重な機会ですね。微力ながら、そんな会社の歴史にほんの少しでも関われることを幸せに思います。

2024年6月 水田かほる

